
luminarie ~ 光の記憶

あこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

luminarie 光の記憶

【Nコード】

N3094P

【作者名】

あこ

【あらすじ】

平次からの誘いを受け、初めてルミネリエを見に来たコナン一行。毎年開催されているルミネリエの意味とは？
一行とルミネリエを通して、風化させてはいけない記憶を語りたいと思います。

登場人物紹介

江戸川コナン

本名・工藤新一。ある事件に巻き込まれ、小学生の姿に…

毛利蘭

新一の幼馴染。コナンが工藤新一だとは知らない

毛利小五郎

蘭の父。現在は、コナンのおかげで「眠りの小五郎」として有名になった

阿笠博士

工藤家の隣人。コナンが新一であることを知る数少ない人物のひとつ

鈴木園子

蘭の親友。財閥のお嬢様であるが、感覚はかなり庶民的

小嶋元太

コナンの同級生。少年探偵団の団長

円谷光彦

コナンの同級生。少年探偵団のメンバー

吉田歩美

コナンの同級生。少年探偵団のメンバー

灰原哀

元黒の組織のメンバー。現在は、コナン同様小学1年生として過ごす

服部平次

浪速の高校生探偵。自力でコナンの正体を見抜く。今回一行を神

戸に誘った張本人

遠山和葉

平次の幼馴染。 自称・平次のお姉さん役

武林一真

NNKの男性アナウンサー。『7・S NEWS（セブンス ニュース）』担当

市原蟹蔵

世間を騒がせている歌舞伎俳優

井崎妙美
いさきたえみ

23歳。 今回の語り部を担当する。
さがわこうすけ

佐川浩輔

50歳。 語り部の司会者

0・序章（プロローグ）（前書き）

注意

プロローグ

この序章は、コナンとは関係ありません。

0・序章（プロローグ）

記憶……

それは、日に日に失われていくもの。

その中には、決して忘れてはいけない、後世に伝えていかなければならないものもある。

例えば、戦争…。

あの惨劇を繰り返してはいけない。

その願いから特に、毎年8月6日では広島、8月9日では長崎、その他各地で平和を願う式典が執り行われている。

災害もまた然り。

世界各地で起きる台風や、ハリケーン、津波、地震などは、多数の死者が出る惨事を引き起こしている。

そんな大災害が日本で発生することは珍しいことではない。

特に、日本は『地震大国』といわれている。

歴史的に見れば、数百年に1回、大地震が発生している。

この数十年のうちに東南海地震が発生するといわれ、都市部は壊滅的な被害を受けるといっ……。。

わずか16年前、阪神、淡路地区を襲った阪神・淡路大震災。

あの大地震で、神戸の街は壊滅的な被害を受けた。

16年経つ今となっては、その気配を感じ取ることは難しい……。。
街は復興し、活気を取り戻している。

そんな神戸の街に15年前灯った復興の明かり、それが「神戸ルミナリエ」である。

0・序章（プロローグ）（後書き）

こんにちは、あこです。

昨日（12月4日）、ふと話の一部分を思いついて、書くことに決めちゃいました（笑）

最初、コナン、蘭、小五郎、平次、和葉で進めようと考えたんですが、そのストーリーを頭の中で進めていくと、探偵団が、ルミナリエを見て「キレーだな」とイルミネーションそのものを楽しんでいる姿が浮かびました。

そこに、大阪コンビが「このルミナリエはな！！」と解説を始める姿が浮かびました。

って、この大阪コンビも当時（2010年度高2で計算）は、2歳にも満たないので殆ど記憶はないといっても過言ではないんですけどね（笑）

で、元太、光彦、歩美が加わり、哀と博士、園子も外せないとなり、かなり大所帯で行くことになりました。

あまり長い話にはなりませんが、どうかお付き合い願います。

1・ルミナリエ

12月2日 午後7時

『こんばんは』

NNK放送に合わされたテレビから武林一真の声が流れてくる。

武林は、今世間を騒がせている市原蟹蔵の事件を読み上げる。芸能人に「超」の字がつくほど疎いコナンは、興味なさそうにこのニュースを聞き流していた。

『続いてのニュースです』

コナンが興味を示さなくても、武林はいつもと同じようにニュースを読んでいく。

『本日より、兵庫県神戸市で、阪神・淡路大震災の犠牲者の鎮魂と復興を祈る神戸ルミナリエが開催されました』

武林がこの一文を読み終えると、映像が切り替わり、画面の右上には【兵庫県神戸市】という文字が表示される。

コナン：（ルミナリエか…。もうそんな季節なんだな）

蘭：そういえば、もう12月だったね

小五郎：今年も結構早かったな……

3人がそんな会話をしていると、テレビ画面では、ちょうど点灯の様子が放送されていた。

『この神戸ルミナリエは、震災が発生した1995年から毎年開催され、今年で16回目を迎えます』

決まり文句のようなナレーションを武林は続ける。

蘭：綺麗ね。一度、生で見たいな♪

コナン：（なんで女つてのはイルミネーションが好きなんだろうな……）

小五郎：つつても、神戸だろ？行くだけでも大変なのに、あんな人の多いところ行きたかねーよ！！

蘭：べ、別に行きたいなんて言っていないわよ！ただ、行ってみたいなあって……

コナン：蘭姉ちゃん、結局「行きたい」ってことだよね？

蘭：……………うん。

小五郎：でもなあ～

3人がこんな会話を続けている間、武林は今年のテーマについて話していた。

『16回目を迎えた今年のテーマは、「光の心情」輝きの記憶を留めるために』で、新たに震災を語り継ぐ、語り部のコーナーが設けられました。これは、ルミナリエが単なるイベントとなってきたことに疑問を感じた地元の大学生が、震災を語り継いでいこうと企画したものです』

コナン：ふうん……

蘭：あ、コナンくん知らないよね。って言っても、わたしも小さい時のことだからよく知らないんだけど、物凄く大変だったんだってね、お父さん？

小五郎：ああ、朝起きてテレビつけたらどこの局も地震のニュースばかりだったからびっくりしたぜ。それに、関西はあまり地震が起きないと言われてたからな。ほら、高速道路が横倒しになったり、寸断された高速道路にバスの前輪がはみ出てる写真くらいならお前も見たことあるだろ？

コナン：うん

小五郎：そんな映像が長柄足り、火災が発生して、煙で空が覆われてる映像が流れっぱなしだったんだ

コナン：大変だったんだね（もつとも、新一としてもそれしか言えねーけどな）

実際、「大変だった」以前の問題である。

当時を知らない今の子どもたち（特に被災地以外）にとってはそれくらいしか言えないのかもしれない。

被災地の子どもは、当時を知る者から当時の状況を聞かされる機会も多い。それでも、当事者との温度差だけは拭えない。

だからこそ、この経験を後世に語り継いでいく必要がある。遠方から観光目的でやってきた人たちにも、伝えていかなければいけないのだ。

このルミナリエの『^{ほんとう}真実の意味』を……

1・ルミナリエ（後書き）

実際、東京でどんな風にニュースが扱われたのかは分かりません。ニュースは推測です（笑）

ちなみに、色々ネタを仕込んでみました。

NNKは、某国営放送。

武林一真は、国営放送のアナウンサーの武田真一さん。

市原蟹蔵は……あえて言いません（笑）

ちなみにルミナリエに関してだったりの情報はもちろん実際のものを使用してます。

では、みなさんまた。

2・ルミナリエへの誘い

12月4日 午後2時

ブルブル

コナン：（電話？誰だろ…）

着信画面を確認すると、『服部平次』の名前が表示されている。

一瞬、着信拒否をしようと考えたコナンであったが、無視すれば東京まで「文字通り」飛んできかねないため、仕方なく電話に出る。

コナン：……もしもし？

平次：なんや、電話出るの遅いやないか

コナン：……切るぞ？

平次：ちょー待てや！

コナン：何の用だよ？！

少々、不機嫌になるコナン。

コナンの不機嫌さを感じ取った平次は、本題を切り出すことにする。

平次：突然なんやけど、来週の土日空いてるか？

コナン：は？！空いてるっちゃ、空いてるけど何の用だ？

平次：いやな、実はお前らを連れていったりしたいところがあるんや

コナン：パス！！

平次：なんやねん、場所も聞かんと「パス」て……

確かに、場所も聞かずに断るのもどうかと思う。

しかし、こういう場合、十中八九呼ばれる場所は決まってる。

コナン：また、大阪だろ？

平次：ちやうわ！今回は、ルミナリエや、ルミナリエ！！

コナン：ルミナリエ？！

平次：何や、知らんのか？ルミナリエ

そういう問題じゃない。一体、どういう風の吹きまわしでルミナリエに誘うのか。

コナンは、それが知りたいのだ。

コナン：そうじゃ、ねえよ。なんで突然誘うんだよ？

平次：いや、こっちは1ヶ月も前から企画してたんやで？

コナン：オレ、初耳なんだけど？

平次：そりゃ、そうやる。オレも初めてゆったもん♪

コナン：……………

電話先のコナンがジト目になったのを感じ取ったのか、
- 273
の冷気が平次を支配する。

平次：そ、それにや！和葉も毛利の姉ちゃんらに会いたいてゆって
たしな

コナン：へえ、「和葉ちゃん」がねえ、

平次：何や！和葉のこと信じてへんのか？！！

コナン：いや、和葉ちゃんのこととは信じてるぜ。信用出来ねえのは、
それをだしに使ったお前の方だよ！

確かに……。

自分が誘っておいて、断られそうだからと、和葉の名前を持ち出した平次のいうことを信用しろという方が難しいかもしれない。
もっともコナンも、探偵としての「服部平次」のことは信用してい

るのだが。

平次：お前、オレにケンカ……ってケンカしに電話したんとちゃうんや

コナン：じゃ、何の用だよ？

改めて、平次が電話をかけてきた理由を聞くコナン。

平次：さっきゆうたルミナリエなんやけどな、お前らの他に呼びたいヤツがおんねん

コナン：呼びたいヤツ？

平次：ああ、お前の友達おるやろ？

コナン：ん？あ、少年探偵団のことか？

平次：あいつら、誘ってくれへんかな？

コナン：は？！何でまたあいつらを？

平次がコナンではなく、探偵団を誘うなんて珍しい。

「何か理由でもあるのか？」と尋ねると、

平次：今年な、震災当時のことを語るっていう企画があつてな

コナン：ああ、その話ならテレビで見たぜ

平次：それを、ルミナリエを単なるイルミネーションのイベントやて思てるあいつらに聞かせたりたい思て……

コナン：そういうことかよ

ここまで説明して初めて合点するコナン。

というか、コナンでなくても、ここまで説明してもらわないと理解することは難しい。

が、ここまで考えての平次の頼みである。断るわけにもいかない。

コナン：分かったよ。とりあえず、おっちゃんの了解もらわないとそっちいけないけど、それでいいか？

平次：ええで♪おおきにな、工藤

コナン：で、行けるとなってもホテルどうするんだ？今からホテル取るのは難しいぞ？

平次：それやったら大丈夫やで♪こつちでホテル取つとるさかい

とことん準備のいいヤツである。普通、来るかどうか分からないのに、ホテルまで押さえるとは、よっぽど自信があったのだろう。そんな、準備のよすぎる平次に、コナンは軽い目眩を覚えていた（笑）

コナン：わあったよ。和葉ちゃんのこととは、蘭に伝えといてやるよ。おっちゃんは、オレと蘭でどうにかするから。じゃあな！

平次：おう！楽しみにしてるで♪

平次のその声を聞いて電話を切る。

直接、小五郎に話をつけるより、蘭に話をつけたうえで小五郎に話をする方が早いだろう。

そう思ったコナンは、小五郎を説得する策を練り始めた。

2・ルミナリエへの誘い（後書き）

こんにちは、あこです。

平次からのお誘いでルミナリエに行くことになりました♪
次回は、蘭と小五郎に話をつけます！

ちなみに、「-273」は「絶対零度」です（笑）
コナンのジト目って怖いんですね（笑）

3・コナンの誘い／蘭・小五郎編

12月4日 午後5時30分

蘭：ただいま♪

玄関から、蘭の声が聞こえてくる。

コナンは、蘭を出迎えるために玄関に向かった。

コナン：蘭姉ちゃん、おかえり♪

蘭：ただいま、コナンくん♪

そう言いながら靴を脱ぐ蘭の両手には、買い物袋がぶらさがっている。

コナン：ひとつ持つよ♪

そう声を掛け、さりげなく蘭の右手から買い物袋を受け取る。

蘭：ありがとう♪ホント、コナンくんって気が利くわね。新一とはえらい違い

コナン：ははは……（悪かったな、気が利かなくて）

コナンも新一であることに違いはない為、蘭に「新一は気が利かない」と言われ（実際、言われたわけではないがw）、思わず毒づく（笑）

蘭：あれコナンくん、何か言った？

コナン：…えっ???!な、何にも言っていないよ（汗）

蘭：そう？ならいいんだけど…

蘭に、心の声が聞かれたのかと思い、焦るコナンであつたが、蘭が特に気に掛けず、夕飯の支度に取り掛かる。

コナン：（そうだ、まずは蘭に話さねーとな）蘭姉ちゃん、あのね……

そう言いながら上目遣いで蘭を見る。声もいつもより高音域で……。コナンのこの態度に、蘭も料理の手を止め、目線をコナンに合わせる。

コナン：あのね、さつき平次兄ちゃんから電話あつて、「突然やけど、来週の土曜にルミナリエ行かへんか」って……。でね、平次兄ちゃん、探偵団のみんなも呼びたいんだって！！あと、和葉姉ちゃん、蘭姉ちゃんと園子姉ちゃんに会いたいって言つてたつて平次兄ちゃんが言つてたよ」

コナンが下手な関西弁と、平次が使つたのと同じ和葉を利用して蘭を誘いかける。

人に「信用出来ない」といいつつ、自らも使うところを考えると、この2人、よく似ていると考えられる。

それはさておき……、

蘭：服部くんらしいね。でも、わたしも和葉ちゃんに会いたいな。それに、ルミナリエも行ってみたかつたし」

そう言いながら笑顔を見せる蘭。彼女の笑顔に、自然とコナンの顔も綻ぶ。

コナン：でもね、まだおじさんに言つてないんだ……。蘭姉ちゃん、一緒に言ってくれる？

最大の問題だとばかりに、明らかに甘えたような、可愛い子ども声を出すコナン。そして相手を見つめ、少しばかり小首をかしげる。これが小さくなった新一が身につけた必殺技である。

これで、大抵の人間は落ちる（笑）

ちなみにこの必殺技は、ある一件で平次が怒らせてしまった和葉の怒りを瞬時に治めさせたほどである。

これは灰原哀曰く、「母親譲りの演技力」の賜物であろう（笑）

その為、蘭からは「いいわよ」と返事が返ってくる。

コナン：ありがとう、蘭姉ちゃん♪

蘭：じゃ、夕飯作るからちよっと待っててね

そういつて、中断されていた夕飯作りが再開される。

ちなみに、本日のメニューは鍋である。

寒い時期にはうってつけで、下処理も簡単で、野菜もたくさん食べられる。

忙しい人間にはぴったりの料理である。

コナンもお皿を出したり、カセットコンロを出したりと、さりげなく蘭の手伝いをする。

蘭：さ、出来た。コナンくん、お父さん呼んできてくれる？

コナン：わかった♪

探偵事務所にいた小五郎を呼び、リビングで「作戦結構」とばかりに目を合わせるコナンと蘭。

小五郎：お♪今日は鍋か。寒い時期にはぴったりだな♪

蘭：そうでしょ？

小五郎：というわけで、蘭ちゅわん！熱燗用意してちょうだい♪

蘭：はいはい……

とりあえず、機嫌取りも兼ねて（？）熱燭を用意する蘭。

蘭：はい、あんま飲み過ぎないでよ？

小五郎：大丈夫だつての！

コナン・蘭：（それが信用出来ねえつての（出来ないのよ））
二人で思わずハモる（笑）

と、ふたりで目配せを行い、会話を切り出すタイミングを計る。

蘭：あ、ね、お父さん、来週の土日なんだけど、どっか行こうよ！

小五郎：ああ？！何だ、突然…

蘭：さつき、コナンくんに聞いたんだけど、服部くんがわたしたちと子どもたちをルミナリエに誘いたいっていうのよ。で、来週の土日に行かないかって話になってるらしくて。ね、コナンくん？

コナン：うん！ほら、今年「語り部」だっけ？あれ、あるってニクスで言ってたでしょ？あれを僕たちに聞かせて、ルミナリエの「本当の意味」っていうのを知ってほしいんだって！

蘭がタイミングを計って振ってくれた会話。失敗させるわけにはいかない。

コナンはコナンで、「平次が『子どもたちを誘った理由』を盾に誘いを切り出す。

蘭：ほら、お父さんは当時の大変さつてのをよく知ってるでしょ？その知ってる立場から、ルミナリエを語って欲しいなって……少々無茶な発言ではある。それに、都民の小五郎にとって、当時を知っているといっても、テレビや新聞上での話である。

小五郎：でも行くつたつて、宿はどうすんだよ?! 今から旅館やホテル取るのは難しいぞ?

小五郎も現実を盾に話を返す。

コナン：それなら、平次兄ちゃんが1ヶ月も前からホテル取ってるつて!

小五郎：相変わらず、準備のいいヤツだな(笑) 行けるかどうかすらわからねえつてのによ……。ったく、しゃーねーな。あいつがそこまで考えて誘うつてなら行かないと、失礼にあたるだろうに……。コナン、あの探偵ボウズに伝えとけよ。「今度の土曜、世話になるからよろしく」つてな!

コナン：いいの?! おじさん♪

小五郎：しゃーねーだろ

蘭：ありがとう、お父さん♪ よかったね、コナンくん

コナン：うん♪ ありがとう、蘭姉ちゃん、おじさん♪

コナンの笑顔を見た小五郎は照れくさそうな顔になる。

そして、それを隠すように、酒の追加を頼むのであった(笑)

コナン：(次はあいつらだな)

そう考えるコナンは、また策を巡らすのであった。

3・コナンの誘い／蘭・小五郎編（後書き）

こんにちは、あこです。

次回予告しますと、コナンが探偵団を誘います！
短く終われば、平次の返事もいれようかな♪

さて、9日に友人とのルミナリエ参加を兼ねて、取材に行ってきた！

取材と言っても、単なる情報収集に過ぎません。
ちなみに、この話のメインイベントは「語り部」。

ご本人様の許可はとっておりませんので、少し話を変えてオリジナルの語り部にと考えております。

それでは、次回もよろしく願いします♪

4・コナンの誘い／少年探偵団編

12月6日 午前8時15分

「おはよ〜」

帝丹小学校の校舎に子どもたちの声が響く。

現在は、授業前ということもあり、どこの教室も騒がしい。
無論、1年B組の教室も例外ではない。

コナン：おはよ〜

歩美：あ、コナンくん。おはよう♪

光彦：おはようございます！

元太：おせーぞ、コナン！

彼らが、平次のいう「工藤^{コナン}の友達」である。

この元太、光彦、歩美の3人は、幼稚園時代からの幼馴染である。
余談ではあるが、幼稚園時代の3人と中学生の新一は一度だけあったことがある。

ちなみに、新一がコナンになる数時間ほど前にもあったことがある
のだが、お互いにその記憶はない。

そんな彼らは、転校してきたコナンを仲間に引き入れて「少年探偵
団」を結成した。

事件に遭遇したり、お宝と聞けば「少年探偵団の出番だ！」とばかりに
顔色を変えて首を突っ込もうとする。

その為に、幾度となく危険にさらされているのだ。

以前、鍾乳洞の入り口に「と」という文字が彫られた大きな石を見
つけたことがある。

これを見たコナンが冗談で「徳川の埋蔵金」と言ったことから、鍾

乳洞内を搜索することになったのだが、その時、偶然にも、銀行強盗犯が仲間を射殺し、その遺体を鍾乳洞に隠そうとした現場を目撃した。

強盗犯たちは、その現場を目撃したコナンたちを消そうと発砲した。その弾がコナンの左側腹部を直撃し、瀕死の重傷を負った。彼らも、そんなコナンを連れて命かなから逃げたという過去がある。

しかし、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」という諺の通り、相変わらず事件に首を突っ込もうとしているのだ。

哀：おはよ…

哀は、相変わらず眠そうな顔で教室に入ってきた。

歩美：哀ちゃん、おはよ♪

光彦：おはようございます、灰原さん！

元太：元気だったか？！

いつものように話しかける3人。

コナン：また徹夜でもしてたのか？

哀：ええ、誰かさんのお陰でね

少しでも皮肉のこもった声で答える哀。

彼女の言う「誰かさん」とは、答えるまでもないがコナン（工藤新一）のことである（笑）

コナン：それはどうも……

夜行性で、朝が弱い哀の性格を差し引いても、原因の半分はコナンにある。

時折ではあるが、コナンが工藤新一の姿に戻ることが出来ているのがその証拠である。
つい最近も、ロンドンの出入国の手続きのために、哀の世話になっている。

それはさておき……

コナン：突然だけど、オメーら今度の土日空いてるか？

光彦：え？！特に用事はありませんけど…

歩美：歩美も空いてるよ

元太：オレも暇だぜ！

哀：何か、用事でもあるのかしら？

コナン：実は服部…じゃなくて、平次兄ちゃんから「ルミナリエに行かないか」って誘われたんだ

早速、平次との約束を切り出す。

元太：ルミナリエ？！……って何だ？

（ドテッ！）

思わずこける一同（笑）

光彦：元太くん、『ルミナリエ』っていえば、毎年この時期に神戸で開催されてるイルミネーションのイベントのことですよ！

歩美：すごいキラキラしてて綺麗なんだよね♪

哀：確か、阪神淡路大震災の追悼の為に開催されてるのよね。で、そのルミナリエがどうかしたの？

哀が先を促す。

コナン：そのルミナリエで、平次兄ちゃんがオレたちに見せたいものがあるらしいんだ

元太：見せたいもの？

コナン：ああ、平次兄ちゃんが言うには、ルミナリエを単なるイルミネーションのイベントって思ってる子どもたちにその本当の意味を知ってもらいたいんだってさ

光彦：ルミナリエの本当の意味ですか？

哀：当然、鎮魂と復興についてでしょうね

歩美：え？！そうなの？

歩美がびっくりしたように哀に問いかける。

どうやら、平次が思っていることは現実のようであった。

哀：そうよ。いい機会だし、ルミナリエに行ってくれば？あなたたちその探偵さんに誘われてるんでしょ？

歩美：哀ちゃんは行かないの？

哀：私は……

哀が言葉に詰まる。

自らの立場を考えると、大勢の人の前に姿を現すのは避けたい……。

光彦：灰原さんも一緒に行きましょうよ！

元太：そうだぞ。大勢で行った方が楽しいに決まってるじゃん

歩美：行こうよ、哀ちゃん！

みんなで行きたい3人が哀を誘う。

コナン：何、心配してんだよ？大丈夫だって！！それに、こいつらもこう言ってるんだ。一緒に行こうぜ

哀：……分かったわ♪

哀のこのセリフを聞いた途端、笑顔になる探偵団。彼らが見せる純粹な笑顔に、思わず哀の顔も綻ぶ。

最初は、嫌で仕方がなかった小学生生活であったが、彼らのお陰で幼い頃には得られなかった大切な何かを得ていると感じた哀であった。

「おはよう」

教室に、1年B組担任の小林先生の声が響く。
いつもと変わらない日常がまた始まった。

4・コナンの誘い／少年探偵団編（後書き）

こんにちは、あこです♪

「命がけの復活」懐かしいですね♪

あの時は、蘭がいなかったら確実に死んでたよなあ、新一。

でも、蘭が「コナン」新一？」って疑ってたお陰で助かったも同然なんだよね（笑）

で、ロンドンも面白かった！（コミック未収録）

蘭に正体がバレそうだからと帰国用の解毒剤飲むし、新一が変声機でコナンの声使ってるし、色々と楽しいんだよ。

アニメ放送が楽しみだな♪（これまた30分放送なんだよなあ。今までだったら2時間SP確実な話なのに…）

「最初は嫌で仕方がなかった小学生生活」というのは、コナン15周年のサイトで、「声優が選ぶ一押しエピソード」内で哀役、林原めぐみさんの「小学1年生の日々も嫌だったけれど（中略）最近では、小学生の日々も受け入れつつありますけどね」というコメントから引用してます。

では、また♪

5・返事と約束

12月6日 午後3時30分

コナン：ただいまあゝ

授業を終えたコナンが帰宅してきた。

蘭：おかえり、コナンくん♪

いつもならこんな時間にいないはずの蘭が出迎える。

コナン：あれ？蘭姉ちゃん、今日は早いね！

蘭：そりやそうよ、今、期末テストだもん

コナン：（そっぴゃ、そんな時期だったな…。てか、オレちゃんと進級出来んのか?!）

ふと、自らの身の上を考えて不安になる。定期試験以前に、出席日数すら足りているのか怪しい……。

そんなことを考えているコナンを知ってか知らずか（恐らく後者）

蘭：そっぴゃえば、コナンくん、みんな何て言ってた？

ずっと気になっていたのだろう。今回の神戸旅行の主役たちの出欠をたずねる。

コナン：…え?!あ、みんな「行きたい」って言ってたよ♪

蘭：そっぴゃ服部くん、喜ぶね!

コナン：そっぴゃだね♪そっぴゃえば、蘭姉ちゃんはどっぴゃった?

蘭：わたし?

コナン：園子姉ちゃん行くって？？

コナンも少しは気になっていたらしい。園子の出欠を確認する。

蘭：もちろん、園子も参加するって！和葉ちゃんに会ったの楽しみにしてるってよ♪

コナン：そっか、和葉姉ちゃんに会ったの久しぶりだもんね。夏休みに大阪行った時は、和葉姉ちゃんに会えなかったんだよね。

「夏休みに大阪に行った」とは、飛行船がハイジャックされた例の事件である。例の事件では、関西圏に住む人間（大阪・兵庫・奈良等）をも巻き込み、大変な騒ぎになったのは記憶に新しい。その事件の直後、平次に拉致られたコナンを除くメンバーは、平次・和葉の大阪コンビとともに会うことなく大阪を去った。

飛行船ジャック事件の翌日、平次、和葉、園子、その他もろもろの影響で、コナンは朝食・昼食抜きという地獄を味わい、相当なトラウマとなって刻み込まれている（笑）

蘭：じゃ、みんな参加だね！コナンくん、服部くんに連絡しておいてくれる？

コナン：わかった♪

蘭：お願いね。それじゃ、私試験勉強しないと……

蘭が、自室に戻る。元々、蘭の返事を聞いたら、すぐに平次に連絡をいれるつもりであったコナンは、携帯を取り出し、平次の短縮番号を押す。

コナン：あ、服部か？

平次：おお、工藤か♪どないしたんや？

コナン：この間の返事なんだけど……

平次：ルミナリエやな。その様子やったら全員参加やる♪

答えを聞く前に、コナンの声から察した答えを告げる。

コナン：よくわかったな。何も言っていないのに…

平次：アホ、お前オレを誰やと思てるねん♪

「何を今更」といわんばかりに、明るい口調で答える。

コナン：あ、おっちゃんが「土日、世話になるからよろしくな」ってさ

平次：おう、任せとき♪

コナン：あと、待ち合わせだけど、どこが都合いい？こっちは、そっちの地理さっぱりなんでな…

会場で合流してもいいが、混雑は避けられないことくらいコナンでも理解できる。

それならば、どこかで合流した方がお互いに楽だ。

平次：せやなあ。それやったら新大阪はどうや？

コナン：新大阪？

平次：ああ。新大阪の新幹線の改札口でどうや？

コナン：なんでまた…

「なぜ、そんな場所？」と疑問を抱いたコナンに解説を行う。

平次：新大阪がお前らにとっても、オレにとっても都合がええんやまず、お前らやけど、どうせこっち来るんは新幹線やろ？新神戸まで行ってもええけど、あそこは在来線が通ってへん。新神戸から地下鉄なり市バスなり使（つ）こて、三ノ宮つてとこまで来（こ）なアカンのや。それに比べ、新大阪やったら在来線もあるし、それな

りに便利やつていうこつちや。それに、こつちも乗り換えとか考えたら新大阪の方が、電車代安いねん

コナンが聞いているのか、いないのかははっきりしないが、平次はどんどん続ける。

平次：寝屋川から京阪電車で京橋まで行ってな、京橋から環状線に乗るんや！そしたら、大阪まで行くやろ？それを京都方面に一駅行けば新大阪や、それに、新幹線の改札口やつたら在来線の改札内やから、三ノ宮なり元町までの切符買（こ）うとけば、大丈夫やし」

コナン：はあ……

平次が一気に説明したため、内容の半分も理解できていない。つまり簡単に言えば、最初に言った「新大阪で待ち合わせをしよう」ということである。

平次：時間やけど、1時はどうや」

コナン：1時？いや、いいと思うけど、新幹線の時間みてないぞ？

平次：それやつたら大丈夫や」10時20分東京発の新幹線に乗れば、1時前には新大阪に着くからな

つくづく準備のいい男である（笑）

コナン：それはどうも……

平次：遅なるんやつたら連絡入るんやで」

コナン：わあったよ、ガキじゃあるまいし、そんな心配すんな！

平次：ごめんごめん、見た目がガキやから心配なつてなあ」

コナン：あんだとお？！

いつの間にか、話すたびに日常茶飯事となりかけている2人の喧嘩。

蘭や和葉からすると、平次がコナンをいじめているように見えるよ
うである（笑）

平次：そんなムキにならんでもええやん♪新幹線、10時20分や
から忘れんなや！

コナン：忘れるほど、バカじゃねーよ！

平次：ほな、土曜日楽しみにしてるで♪

そのセリフを最後に、通話が途切れた。

コナン：なんだよ、服部のヤツ……

そう悪態をついたコナンが理解したのは、「土曜の1時に新大阪で
待ち合わせ」ということだけであつた（笑）

5・返事と約束（後書き）

こんにちは、あこです♪

さてさて、返事というより、待ち合わせ場所がメインになってしまいましたね（笑）

最初、待ち合わせ場所については、小説に書かない部分で決めただけで設定にしてたんですが、変えました！

平次が延々と語ったルートは、実際に「大阪お好み焼きオデッセイ」でも一部使われてます。

オデッセイでは、寝屋川から淀屋橋（高校生とのクイズ大会が開かれた場所）まで京阪電車で、淀屋橋から地下鉄御堂筋線で梅田という設定になっています。

ま、コナン世界の大阪は結構リアルなんで、そのまま使えるんですよ（笑）

今回は、『天空の難破船』と『大阪お好み焼きオデッセイ』からネタを拝借しました。

オデッセイ見てない人は、『難破船』の初回版にオデッセイが同梱されてますので、是非♪

では、また（*ハ・ハ）（ハ・ハ*）

6・西へ

12月11日 午前10時

今回の神戸旅行参加メンバー全員が東京駅に集合した。

小五郎：みんな揃ったか？

元太：オー！！

光彦：ええ、僕たち少年探偵団と、蘭さんと園子さん。そして、阿笠博士に毛利探偵。全員揃ってます！

歩美：楽しみだよねえ、ルミナリエ♪

みんな初めてのルミナリエ、そして神戸旅行を楽しみにしている。小五郎の事件や園子の招待で京都や大阪に行ったことのあるメンバーではあるが、神戸に行くのはみんな初めてである。

夏休みに起こった、飛行船ジャック事件での明石海峡大橋での一悶着を除いて…ではあるが（笑）

園子：みんな、そろそろ新幹線来るわよ

蘭：もう園子ったら♪

園子：あ、来たわよ♪

そういいながら指を指す園子。子どもたちは、園子が指さした方を見ると、これから自分たちが乗る10時20分発の新幹線がホームに入ってくる場所だった。

到着した新幹線に総勢9名で乗り込むと、車内も一気ににぎやかになる。

座席は、3列シートに元太、光彦、歩美。その隣の2列シートにコナンと哀。その前のシートに蘭と園子、そしてその隣の3列シート

に阿笠と小五郎が並んで座る。

歩美：ねえ、コナンくん、哀ちゃん。神戸ってどんなところかなあ？

歩美が通路を挟んで隣に座るコナンに話しかける。

コナン：そうだな……

哀：神戸コレクションが開催されたり、神戸系ファッションといって、時代の流行にとらわれないファッションスタイルが20代の女性を中心に流行っていたりするわね…。私も、以前から興味があったわ

コナン：おい、灰原…

哀の実年齢を知っている(?)コナンは思わず、小声でツツコむ。
元太からも、「ホントは年齢ごまかしてんじゃないかねえか?」と厳しいツツコみが入る。

しかし当の本人は、涼しい顔で「さあ、どうかしらね」とつぶやくだけであった。

哀：分かっているわよ、少なくともあなたよりはね

コナン：どういう意味だよ?

哀：事あるごとに軽率な行動をとるどこかの名探偵さんよりはマシだっけって言ってるのよ?

いつの間にか「他人」には聞かせられないケンカを始めるふたり。
勿論、ほかの人間には聞こえないように小声で行われている。

が、哀のいうことはもつともであり、頭の上がないコナンは、悪態をつきながらも引き下がるより他なかった。

そんな2人を見つめる探偵団は、「コナンくん(コナン)」と哀ちゃん(灰原)さん)またケンカしてるよ」と思っていた(

笑)

子どもたち5人がそんな会話を繰り広げているとき、蘭と園子の女子高生組も、数時間後の友人との再会を楽しみにしていた。

蘭：そういえば、和葉ちゃんに会ったのって久しぶりよね！

園子：そうね、前に会ったのはいつだったけ？

蘭：確か、夏休みに大阪で会って以来じゃない？

園子：そういえば、アレ以来会ってなかったっけ？

正確に言えば、「会った」レベルではない。

飛行船ジャック事件の翌日、帰京する自分たちを見送りに来た（コナンを送り届ける）時にちょっと顔を見たというくらいである。

園子：あの時はゆっくりはなせなかったし、招待してくれた服部くんたちに感謝しないと♪

蘭：そうね♪

それぞれがそれぞれの思いを抱く、神戸旅行。

そんな彼らに乗せた新幹線は、今回のホスト（招待者）が待ち受ける新大阪へ向かうのだった。

6・西へ（後書き）

こんにちは、あこです。

あ、遅ればせながらあけましておめでとうございます、
今年も、よろしくお願いします。

前回の更新から期間が開いてしまい申し訳ありません。

（いや、謝るならワールドカップ早く終わらせろよ！）

でも、1月17日までには何としても完結させるつもりでいます！
どうしても、当日に書きたい内容があり、その内容が本編完結して
ないと書けないんですよ…。

だから、意地でも当日までには完結させます。

あと、半月程度の執筆になりますが（多分…）、よろしくお付き合
いください。

7・再会と出発

コナン一行を乗せた新幹線が京都駅を出発する。

小五郎：もうすぐ新大阪だからそろそろ降りる準備しろよ？

小五郎の声を聞いた一行は、徐々にはあるが降車の準備を開始する。

そして、コナンたちを乗せた新幹線は徐々に減速し、新大阪駅のホームに到着した。

「新大阪、新大阪」

ホームには、駅員のアナウンスと乗客の声が響き渡る。

元太：やっと着いたぜ……

光彦：ええ、さすがにちょっと疲れましたね

歩美：歩美も……

流石に約2時間半も座りっぱなしでは大変だったのか、子どもたちには疲労の色が見える。

歩美：ずっと新幹線の中にいたから、冷たい風が気持ちいいね♪

哀：そうね、疲れが癒される気がするわ

外の風にあたったのがよかったのか、子どもたちは少しずついつもの元気を取り戻していった。

コナン：（1時4分…。ヤベ、待ち合わせ！！あいつ遅れるとどう

さいからなあ……）とりあえず、改札まで行こうよ、平次兄ちゃんたち待ってるよ？

コナンの一言で、待ち合わせをしている相手のことを思い出したのか、休憩していたメンバーは、待ち合わせ場所である新幹線の改札口に向かう。

新大阪駅新幹線改札前

平次：みんなおっそいなあ……。今、何時やと思てんねん

和葉：自由席って、改札から一番遠いやん。だからちよっと遅なってるだけとちゃうの？ そんなイライラせんでもええやん

平次：そやかて、約束は1時やで？！

和葉：すぐ来るで、平次

今回の招待者^{ホスト}ふたりは、ゲストの到着を今か今かとまっている。

特に、この企画発案者である平次は、1分が1時間に感じられるほどである（笑）

和葉：ところで平次、ちゃんと蘭ちゃんらも呼んでくれたんやろなあ？

平次：当たり前や！あの毛利の姉ちゃんトコのボウズ通して姉ちゃん、財閥の姉ちゃん誘（さそ）てもろてるわ

和葉：ホンマに？

平次：ホンマや！（てか、オレだけ工藤ら呼んで、あの姉ちゃん呼ばへんかったら和葉に殺されるわ！）

和葉は、夏休みの一件で、蘭たちとゆっくり話が出来なかったことを根に持っているようであった。

「和葉ちゃん！服部くん！！」

遠くから、自分たちを呼ぶ声がしたため、平次と和葉は、ふと声の方へ顔を向ける。

そこには、手を振る蘭と園子、そのすぐ後ろに、今回の主役・少年探偵団（元太、光彦、歩美）の姿があった。

そして、コナンと哀、最後に小五郎と阿笠がやってくる。

平次：久しぶりやなあ♪元気にしottaか？

光彦：ええ、お久しぶりです、平次さん、和葉さん

歩美：こんにちは♪

元太：オレはいつも元気だぜ♪

子どもたちと平次は何気にいい仲がいい。

出会ったきっかけは、新一に推理勝負を挑んだことから始まっている。

今ではコナンと仲がいいことも手伝って、会った時にはよき遊び相手となっている。

コナン：悪かったな、遅れちまって

平次：ホンマやで〜

コナン：子どもたちが「疲れた」って言ってたから、ホームでちょっと休憩してたんだよ

平次：そんなことかいな。ま、しゃーないわな…

「親友（笑）」と再会したからか、幼馴染で同級生の和葉が親友と再会して笑顔を見せているのが響いたのか、さっきまでの怒りは消え去っていた。

小五郎：探偵ボウズ、迷惑かけるだろうが、よろしくな！

平次：任せといて、おっちゃん、せや、みんな話込んだるとこ悪いんやけど、移動しよか？

流石に総勢11名で改札前で話し込んでみると、他の利用客に迷惑がかかる。一行は、一先ず在来線のホームを目指すことにする。

すでに女子高生組はガールズトークに花を咲かせている。

他のメンバーはといえば、探偵団の3人は哀を巻き込んでルミナリエについて、大人ふたりは雑談を、残るコナンと平次は、今回の旅行の経緯を話していた。

コナン：で、今日はどうするつもりなんだ？

平次：どうするもこうするも点灯式から参加に決まってるやん、

コナン：やつぱりな…（笑）で、何時からだ？

平次：今日は土曜日やろ？点灯は5時からやな

ルミナリエの点灯は、曜日によって違いがある。

平日は午後6時から、土日は午後5時からの点灯である。しかし、混雑の影響から数分、十数分ほど前倒される場合がほとんどである。もっとも、5時の点灯となれば「薄暗い」中での点灯になるのだが。

和葉：平次、どないする？

会話が途切れた頃、和葉から声がかかる。

平次：なんや？

和葉：次の新快速待つより、快速で行った方が早いんやけど、快速でええかな？

平次：そら快速でもええんとちゃうか？どうせ、目的地は三ノ宮なんやから

和葉：元町まで行かへんの？正規ルートは元町やる？？

平次：せやけど、人もぎょうさんおるし、迷子になつたら大変やん。せやったら、東遊園地から逆走すればええやん

二人に代わり説明すると、ルミナリエの正規ルートは元町から三ノ宮、わかりやすく言えば、西から東への一方通行である。本来はもちろん逆走は禁止である。しかし、交通規制がかかる前に入ってしまったえば、特に問題にはならないだろう…ということである。

探偵団にもどんな内容なのかを聞かれ、「ってわけや」と解説する。

哀：なるほど？それで、そんなことしても大丈夫なのかしら、大阪府警本部長の息子が……

平次：きつついなあ。別に交通規制掛かる前やねんからええやん

哀：ま、別にいいけど……

コナン：（相変わらずだな）

哀の態度に心の中で毒づくコナン。

話しながら歩いていると、いつの間にかホームの一番西まで来ていた。

ここは、降車駅である三ノ宮の西改札に一番近い場所である。三ノ宮は東・中央・西に改札があるが、メイン会場である東遊園地に一番近いのは、西口である。

「……分発、姫路行き、快速電車がまいります。黄色い線の内側までお下がりください」

無機質なアナウンスとともに、コナンたちがまつホームに快速電車が入ってくる。

彼らに乗せた電車は、目的地に向けて走り出した。

7・再会と出発（後書き）

こんにちは♪

タイムリミットまでもう時間はないと焦っているあこです。

今回は、あたしが知っている限りの新大阪駅の情報&ルミナリエ情報を入れてみました。

三ノ宮の情報も、もちろん嘘偽りありません！

ただ、新大阪を発った時間だけは曖昧にしました（笑）

……特に意味はありませんが。

私事ですが、16日の京セラドームワーホビ参戦します！

17日はもちろん、東遊園地での「1・17のつどい」に参加です。

意地でも執筆しきるぞ！！

8・車内にて…

コナンたちを乗せた電車が大阪駅を出発した。

歩美：うぁ、見て見て！！高速道路が建物の中を通ってる！

元太：ホントだ！すごい！

光彦：ホント、何でもありませんね、大阪って

いつかコナンが大阪に来た時と同じ反応をする探偵団（笑）

以前、平次と和葉に招待され大阪にやってきたとき、コナンは環状線内からそれを見つけたことがある。

その時の会話を思い出し、懐かしさに浸るコナン。

平次：ホンマ、あん時の工藤と同じ反応しとるな（笑）

コナン：ハハハ……。てか服部、人前でオレのこと『工藤』って呼ぶな！何度言わせりや気が済むんだよ？！

哀：多分、何度言っても足りないわよ？あなただってそれくらい分かってるでしょ？

哀のセリフには多少の皮肉がこもっている。

平次：流石、姉ちゃんや♪

哀：誰も褒めてないわよ？

哀の皮肉が通じているのかいないのか、平次は嬉しそうな笑顔を浮かべている。

そんな飄々とした平次の態度が気に入らないのか、哀はいつもの冷たいジト目で平次を睨む。

そんな哀の態度に気づいたのか、話をそらすように子どもたちに声

をかけた。

平次：せや、ちょー時間もああるし、ルミナリエの予習でもしとこか？

歩美：ルミナリエの予習？

歩美が首を傾げながら尋ねる。元太も光彦も「どういつことだろう……」と思いながら平次の顔を見つめる。

ちなみにコナンと哀は、「話をそらせやがったな……」と心の中でハモっている（笑）

平次：ボウズらもどうや？

平次はそう言つて、コナンたちにも話を振る。

哀：私は別に構わないわ……

コナン：オレもどっちでもいいよ。で、何するの、平次兄ちゃん？

さつきまで「服部」と呼んでいたが、こちらはしつかりと「平次兄ちゃん」とコナンとしての対応を見せる（笑）

平次：さて、まずは、ルミナリエがいつから行われとるか知ってるか？

元太：えーっと……

光彦：何悩む必要があるんですか、元太くん！

しよっぱなから悩んでいる元太に光彦だけでなく、みんなが呆れている。

哀：あなたがいうこの神戸ルミナリエは、阪神淡路大震災が発生した1995年に初めて開催されて以降、毎年開催され、今年で16回目の開催を迎えるわ

みんなが答えることを忘れていたようであった為、哀は仕方なく答えた。

一応、平次が次に問うであろう答えも一緒に（笑）

平次：さすが、姉ちゃんやな、で、その姉ちゃんの言うとおり、今年で16回目の開催になるわけやけど、その今年のテーマはなんか知ってるか？

歩美：テーマ？

光彦：ニュースで見たような記憶はあるんですが…

「流石に、小学生に（しかも、東京在住の）ルミナリエのテーマは難しかったか」と考えた平次であったが、コナンの「『光の心情』……だろ？」という回答に顔を綻ばせる。

平次：さあすが、くど…っつ、コ、コナンくんやな…（痛っ！）

さっき、平次が言葉に詰まったのは、コナンに足を踏まれたから。数分前、「人前で『工藤』って呼ぶな」というコナンに、哀が皮肉めいて返した「何度言っても足りない」という会話が思い返される。おそらく、「人前でコナンを本名で呼びやすい人ランキング」というものがあれば、ダントツで1位を狙えるだろう。

文句を言っただけでやろうとコナンを見下ろすと、それ以上の目線で自分を睨む蒼い瞳があった。その瞳には、多少の怒りと呆れがこもっており、文句を言えばコナンが常時身に着けている腕時計で眠らされるかもしれない。

いや、眠らされるだけならまだ可愛いもので、おそらく脅威のサッカーボールが飛んでくる可能性もある。ここは、これ以上「工藤」と呼ばないように気を付け、自らの文句は飲み込むことが一番の安全策であると、平次は本能で判断した。

平次：そう、ボウズのゆう通り、今年のテーマは『光の心情』や。
毎年、デザインに応じたテーマがつけられてるんや

子どもたちに講義する平次の姿を見た和葉が続ける。

和葉：でな、いっちゃん正面のエントランスが「フロントーネ」、
そっから東遊園地に行く光のトンネルが「ガレリア」、でメイン会
場の東遊園地にあるんが「スパツリエーラ」って呼ばれてんねん
一同：へえ〜

平次と和葉の講義に耳を傾けるコナンたち。

蘭：へー、さすが和葉ちゃん♪よく知ってるね！

和葉：へへ、そうでもないよ♪

否定しつつも和葉の顔はほころんでいる。

平次はと言うと、「オレはそうでもないんかい?!」と不機嫌そう
な顔をしていた（笑）

この講義が途切れたころ、彼らを乗せた電車はちょうど六甲道駅を
出発したところであつた。

「次は、三ノ宮〜、三ノ宮〜」

男性車掌のアナウンスが響く。

平次：おつ、次やな♪

蘭：結構、早かったね

和葉：せやろ？寝屋川からやったら結構かかるんやけど、大阪から
やったらそんなにかからへんねん

そんな会話をしているうちに快速電車は三ノ宮駅のホームに到着した。

8・車内にて…（後書き）

こんにちは、やっぱりもう時間がないと焦っているあこです。

17日まであと4日。

実質の執筆時間は2日しか残されてません（汗）

16日は京セラドームに出張ですから♪

あ、「高速道路が建物の中を…」っていうのは、シークレットファイルからのネタです♪

ちなみに「六甲道」は名前を入れたかっただけです。その為に、みんなに快速に乗っていただきました♪

あ、「大阪（駅）から三ノ宮までそんなにかからない」っていうのは、一緒にルミナリエに行った友人とあたしの体験談です。

あと数日ですが、よろしくお付き合い願います♪

9・会場へ

新幹線と在来線を乗り継ぎ、コナンたちはようやく目的地（東遊園地）の最寄駅に到着した。

元太：やつと着いたぜ…

光彦：ここが神戸ですか…

歩美：見て見て！海が見えるよ♪

光彦：ええ、その反対は山ですね。あれが、六甲山でしょうか……みんな初めての神戸に興奮気味である。

蘭：神戸ってすごく綺麗な街ね

園子：でもなんだか綺麗過ぎるといっつか、街自体が新しい気がするわ…

一方、女子高生組は、街の新しさに気づく。

ところどころに昔からあったであろう建物が見受けられるも、道路等は建物より古くは感じられない。

コナン：ほとんどは、震災以降に建てられたビルなんだな……

平次：オレが4〜5歳の頃やったかな…。広島行くときに神戸通ったんやけど、空き地があったりしとったんはよう覚えてるわ…

平次も、ようやく物心がついたころの記憶をたどる。

哀：（どんな絶望的な状況でも、決してあきらめなければ必ず立ち直ることが出来るのね…）

物心ついたころから組織にいた哀にでも、最低限の一般時事くらいは知ることが出来る。もとより優秀だった哀は、この未曾有の大災害を幼いながらに理解していた。

哀：（ふっ…。こんな風に考えられるようになるなんてね……）

「あきらめなければ…」こんな風に考えるようになったのも、どんな状況に置かれても、真実から逃げず、真正面から自らの運命に立ち向かうコナンと、転校生であった自分と壁を作らず、真っ先に声をかけてくれた友人たちのおかげである。

平次：まだこんな時間か…。ちょっとだけ余裕あるな…
和葉：どないする、平次？

混雑を考えた早めの行動をとったとしても、わずかな時間ではあるが余裕がある。

しかし、あまりゆっくりし過ぎると、痛い目を見るのも事実である。相談の結果、時間的余裕を使うのは、現地についてからにすることになった。

平次：さっそくやけど、東遊園地まで行くで♪

その声をかけると、改札に向かって歩きだす平次。そのあとを追うように、みんなが続く。

コナンもいつものようにエスカレーターに乗る。その様子を見た平次は、思わず声をかけた。

平次：こら、お前どっちに立ってんねん

コナン：へ？！見りゃ、わかるだろ？

確かに、それは見ればわかる話ではあるが、そういう問題ではないのだ（笑）

平次：だから「なんで左に立ってるんや」って聞いてんねん！

コナン：はい？左に立って右を開けるのが普通じゃないのか？

平次：何ゆってんねん。右に立つて左を開けるんが普通やる！
そんな争いをしている間に、改札前に到着する。

和葉：ちょー、平次。はよ進まな、邪魔になるで。
一応、周りを考えて、声をかける。

平次：うるさい！大体、悪いんはこのガキや！！『郷に入りては郷に従え』って諺もあんのに、堂々と左に立つちよるんやから
和葉：せかかて、小学生相手に大人げないわ！

「コナン vs 平次」だったケンカは、いつの間にか「平次 vs 和葉」と化している。
このケンカを見た園子は、「ホント、蘭と新一くんみたいね」と思うのであった。

園子：もうふたりともいい加減にしなさいよ！
しかし、いい加減に飽き飽きしてきたのか、はたまた周りの目が気になったのか、ふたりに制止の声をかける。

和葉：園子ちゃん、止めんとって！

園子：で、でもホラ、みんな見てるからさ…

和葉：へ？！

園子の忠告で、初めて周りを見回す和葉。その頃、平次もコナンに「いい加減にしろよ、服部」と止められ、周りを見回していた。
平次と和葉は、お互いに顔を真っ赤にして顔を見合わせる。そしてこの発端を作った少年に顔を向けると、悪戯っ子のような笑顔でこちらを見返していた。

平次：せ、せや！トイレ行くんやったら今のうちやで！

和葉：せやね。「備えあれば憂いなし」ってゆうつくらいやし…

さっきの恥ずかしさからか、話をそらす（笑）

平次：と、とりあえず東遊園地まで行こうや。近くにトイレもあるしな

和葉：神戸市役所やね。あそこやったら大丈夫やろ

「何が？」と問いたいが、一先ず移動を開始することにした一行であった。

フラワーロードを南下し、神戸市役所でトイレ休憩をとるコナンたち。

そして、神戸市役所を出た彼らの目に最初にうつったのは、軒を連ねる屋台であった（笑）

が、まだ仕込みをしている段階であり、営業をしている屋台はなかったため、成す術なく、屋台の通り歩く。

そんなとき、一体の女神像の前で立ち止まる。

女神の名は「マリーナ」。彼女が抱えている時計は、「5時46分」を指した状態で止まっている。

これもまた、震災の記憶を後世に伝えるためにこの東遊園地に保存されているのである。

そんな「生き証人」を後にした一行は、東遊園地の広場にやってくる。

園子：わあ、大きな建物ね

蘭：ホント、点灯が楽しみだわ♪

和葉：ホンマやね♪

オブジェひとつひとつをよく見ると、小さな電球がたくさんついているのが確認できる。

想像が出来ないが、この小さな電球ひとつひとつが感動的な光を作っているのだと思うと、感慨深げになるのであった。

一方子どもたちも、点灯はまだであるが、初めて間近で見るルミナリエの大きさに圧倒されていた。普段は冷静で、あまり表情を見せない哀が、驚きの表情をしている。

哀：これは、点灯が楽しみね

歩美：ね、哀ちゃん！一緒に写真撮ろうね♪

哀：吉田さん……

今では「親友」とも呼べる10歳年の離れた友人に誘いを受ける。

光彦：あ、歩美ちゃん、抜け駆けはいけませんよ！

勿論、抜け駆けで声をかけたわけではない（笑）

哀：吉田さんは、大丈夫よ（笑）自分勝手に行動して、周囲に心配かけるどこかの探偵さんとは違うんだから。ね、江戸川くん？
そっついながら、コナンの方に顔をやる。

コナンは、不機嫌そうな顔をしながらも、反論の言葉を返す。

コナン：おい、灰原。その「探偵」ってオレのことってんのか？

哀：あら？誰もあなたのことだなんて言っていないわよ？

面白い玩具を見つけたかのような目で続ける。

哀：それとも「自分勝手に行動して、周囲に心配かけてる」って自覚でもあるのかしら、平成のホームズさん？

コナン：オメーな……

コナンが二の句を次げないと、小五郎から声がかかった。

小五郎：おーい、お前ら何してんだ、置いてくぞ？！

コナン：え？！

ふたりが話をしている間に、みんなは東遊園地に入る横断歩道まで歩いていたらしい。

置いて行かれないように…とコナンと哀は、みんなのもとに駆け寄った。

そして、再び歩きだし、フロントーネと呼ばれるエントランスのある場所にたどり着いた。

平次：せや、お前らおらん間に決めたんやけど、点灯してから自由行動な

コナン：じ、自由行動？大丈夫なのか、それで……

東遊園地での軒を連ねる屋台を思い出したコナンは、子どもたちの心配をする。

今回の目的は、ルミナリエ…そして、震災を後世に伝えていくために開催される、語り部である。

これだけ店があれば、あいつらが目的を忘れるのではないか…。そう心配するコナンであったが、彼らが屋台へ行くことを制止するのはかなり難しい。それならば、自由行動にし、集合場所と時間を決めておくのが無難である。

平次：そういうことやから、7時に東遊園地の広場で見た大きな建物あったやろ？そこに、募金できる鐘があるんやけど、そこに集合な♪

総勢11名での参加である。また、大勢の人間が参加しているため、それぞれがはぐれてしまうのは、必至である。

このことも考えて、「待ち合わせ」という手段を考えたのだった。

点灯の時間は、刻一刻と迫っていた。

9 ・会場へ（後書き）

ホントに時間がないと焦っているあこです。

もう、書ききれるか不安になってきました。

あと、点灯の瞬間に東遊園地での出来事、メインイベントと書いてたら明後日に間に合わないかも（汗）

往路の状況を書いたちゃったから、復路も書かないとだめですか？
てか、メインイベント何にも出来てない。

あるのは、あたしが聞いた語り部を録音したものだけだし……。

明日の夜、ネカフェで頑張ります！！

10・点灯〜東遊園地へ

午後4時30分 三井住友銀行神戸営業部前

点灯予定時刻30分前ということもあり、辺りは人でいっぱいである。

混雑を考え、早めに行動したのがよかったのか、フロントーネの真正面を確保することができた。

「皆様、本日は神戸ルミナリエにご来場いただきまして、まことにありがとうございます。点灯まで今しばらくお待ちくださいませ」女性スタッフのアナウンスが流れる。

このアナウンスにあわせるかのように、来場客たちは、携帯電話やデジカメと取り出し、点灯の準備に備えている。

平次：みんなもうちょっとやで、カメラの準備忘れんなや？

平次の声かけに、蘭たちや探偵団のメンバーはおのおの持参したデジカメを手元に用意したり、携帯電話のカメラを用意したりしている。

――20数分後

元太：まだかよ…

光彦：元太くん、もう少しですから待ちましょうよ
哀：そう、いらだっても時間は早く過ぎないわよ？

元太が「でもよ」と反論を開始しようとしたとき、聞きなれないメロディーと共に、歌が流れてきた。

♪ 地震にも負けない 強い心を持つて

亡くなった方々のぶんも 毎日をたいせつに生きてゆこう
く 傷ついた神戸を 元の姿に戻そう

支えあう心と明日への 希望を胸に♪

歩美：これなんて曲なんだろうね

光彦：なんだか温かい歌ですね

初めて聴く曲ではあるが、どことなく親しみを覚えるメロディー。
それにみんな耳を傾けていた。

♪ 響き渡れ僕たちの歌 生まれ変わる神戸のまちに
届けたい私たちの歌 しあわせ運べるように♪

蘭：ね、和葉ちゃん。これってなんて歌なの？

園子：あ、私も気になる！

和葉：あ、この曲『しあわせ運べるように』って言う曲やねん。め
っちゃええ曲やろ？

蘭：なんだかすごく優しい歌ね

園子：それにすごく大切なメッセージがこめられてるのね

コナン：『亡くなった方々のぶんも』か……

平次：どないしたんや、工藤？

コナンは、この歌詞に自らを重ねているようであった。

コナン：いや、オレもあんな毒薬飲まされて、こんな身体になっち
まったけど、こうやって生きてる。だからこそ生き抜いて、奴らを
倒さなきゃならないんだ。あの毒薬で殺害された被害者のためにも
…。オレに科せられた宿命なんだろうな…

コナン……いや、新一は、真剣な瞳（め）をする。

♪地震にも負けない 強い絆をつくり
亡くなった方々のぶんも 毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
やさしい春の光のような 未来を夢み

響き渡れ僕たちの歌 生まれ変わる神戸のまちに
届けたい私たちの歌 しあわせ運べるように

響き渡れ僕たちの歌 生まれ変わる神戸のまちに
届けたい私たちの歌 しあわせ運べるように

届けたい私たちの歌 しあわせ運べるように♪

転調を経て、徐々にゆっくりになるメロディー。
そのメロディーが薄暮の空に包み込まれた瞬間、美しいハーモニーが響く。

ハーモニーに合わせ、鐘の音が響き渡る。それに呼応するかのよう
に、フロントーネに灯りが点された。その瞬間、その場にいた者全
てが歓声をあげる。

フロントーネの点灯に続き、通りに続くアーチ・ガレリアにも灯り
が点された。

蘭：とっても綺麗ね♪

園子：ホント♪これを……

蘭：真さんと……

園子：新一と……

蘭・園子：一緒に見られたらすっごい幸せだろうな♪……でしょ？

園子が言い出した為、先手を打たれまいと発言した蘭。その発

言がちょうど園子とかぶり、顔を見合わせ、「お互い様だね」と確認しあう。

そんな蘭の心情に気づいたコナンは「一緒に見てるからな…、蘭」と自分にだけ聞こえるよう、心の中でつぶやく。

コナンの切なくも優しいその瞳を見た哀は、自らが起こしてしまった”罪”を思い出す。

哀：（工藤くん、蘭さん、ごめんなさい。あなたたちを引き離してしまつて…。やっぱり、私は、彼と一緒にいる権利なんてないのかもしれない…）

——鎮魂の灯りが……。

もうこの世にはいない、姉と両親のことをふと思い出す。

哀にとつてとつともなく辛い思い出。ほとんど顔も知らない両親とそんな哀にとつてたった一人の家族とも言えた姉の明美。そのことを思い出していると、哀の心に何かがこみ上げてきた。

歩美：哀ちゃん、大丈夫？

哀：え……？！な、何でもないわ…

光彦：でも、泣いてますよ、灰原さん……

光彦に指摘されて初めて、心にこみ上げてきたものの正体に気づく。一方、コナンも哀の涙にきつても切れない後悔が押し寄せる。

コナン：灰原…、ごめんな。あの時、姉さん助けられなくて……。オレがもっと早く姉さんの正体に気づいていれば、あんなことには…。そういうコナンの胸にも明美の最期の瞬間がフラッシュバックしてくる。

哀……別にあなたが謝ることじゃないわ

哀も精一杯の強がりを見せる。

あの事件——組織による10億円強奪事件は、新一と志保の心に大きな影を落としている。

新一が探偵を続けていく限り、そして志保が生きていく限り、一生付きまとう宿命である。

そして、その事実を唯一知る阿笠は、幼い我が子を見守る父親のような目で二人を見守っていた。

元太：なあ、光彦。あいつら何の話してんだ？

こういうことに関しては、とことん鈍い元太が、常識人である光彦に質問する。

光彦：僕にもわかりません。けど、何かあったんですよ

歩美：そういえば、哀ちゃんのお姉さん、死んじゃったって言うってたよね？

歩美は、いつかの記憶をたどっていた。

光彦：（だからあの二人には、僕たちがどうやっても立ち入れない領域があったんですね…）

あの二人が抱えている問題は、おそらく一生背負っていかなくてはいけない。頭のいい光彦は、押さないながらも、その事実を理解する。

コナン：心配すんなって。オレが姉さんのぶんまで守ってやつからよ、それが、オメーと姉さんに出来る唯一の償いだからな……。お前まで死なせたら、明美さんに申し訳が立たないからな
コナンが真剣な目でこちらを見てくる。

彼を子どもの姿にしまった人間なのに、それでも、恨み言ひとつ言わず、自らの危険を犯してまで守ろうとしてくれる…。

哀：（工藤くん…）ふっ、私は「守ってください」っていうような

お姫様じゃないわ。前にも言ったじゃない、それに、私はきちんと責任はとるつもりよ？

コナンや周りの優しさに支えられ、ここまでやってこれた。

「彼らがいなければ、今の私はいない」そういえるほど、かけがえのない存在となっている。

コナン：お、やっと元に戻ったな。やっぱり、オメーはそっちの方が似合ってるよ

哀：あら？どういう意味か説明してくれる、探偵さん

歩美：あー！哀ちゃんとコナンくん、またケンカしてるよ

光彦：もったい加減にしてくださいよ？

元太：でも、いつもの灰原に戻ってよかったよ！

彼らの笑顔に、ふとツインタワービルでの事件を思い出す。

あの時、彼らのうち誰かひとりでもかけていれば、哀はこの世にいなかっただろう。

彼らと過ごしたこの数ヶ月は、短いようで、とても内容の濃い数ヶ月だったように思う。

哀は、ルミナリエの温かい光に照らされた友人たちの顔を見つめながら、「この些細な幸せが続きますように」と天国の姉に祈っていた。

10・点灯〜東遊園地へ（後書き）

完全に更新が厳しくなってきたあこです。

なんかコナンの発言からシリアスになってしまいましたね（笑）
携帯で書いてたら、自然とこの話になってしまいました。
悪くはないかとも思い、そのまま掲載します。

あ、私事ですが、ワーホビ大阪大会参加してきました♪
コナンステージめちゃくちゃ楽しかったです！

クイズに正解して、みなさんのサイン入りポスター（沈黙の原画）
ゲットしました♪

「なんか悔しいからじゃんけんしよ！」って意味不明だし（笑）
脈略すらもないし（笑）

とりあえず、出来る範囲までがんばります！

11・東遊園地

仲町通を抜け、彼らは再び東遊園地に戻ってきた。

すでに黒山の人だかり状態で、東遊園地に通じるスロープで、立ち止まることは不可能である。

なんとか、その状況から抜け出した、彼らの目に映ったのは、大きな光の砦であった。

点灯の瞬間、最大の瞬間を迎えた！そう、思っていたコナンたちであるが、四方を光で取り囲まれたこのスッパツリエーラにまた感動を覚える。

そんな彼らは、その光の中心へと歩みを進めた。

歩美：わぁ♪明る〜い！！

光彦：とっても美しいですね！

元太：キレーだな♪

360度、光に囲まれたこの空間に、子どもたちは感嘆の声を上げる。

蘭：これがルミナリエ

園子：素敵ね♪

和葉：ホンマやなあ♪

女子高生一同も、この砦の美しさに見入る。

小五郎：ほう、これはなかなかのもんだな

阿笠：これは、街のイルミネーションとは違う、温かさを感じるのお

大人二人も、この時期、色々な場所で開催されているイルミネーションイベントとは違いを感じ取っていた。

哀：綺麗ね

コナン：ああ

この二人が想うところは同じなのか、遠い国にいる「彼女」に黙祷をささげる。

平次：（何やねん　。オレだけ仲間はずれかいな　）

一人取り残された格好となった平次は、心の中で愚痴をこぼす。

歩美：あ！あれ何だろう？

光の中心より、奥にある、小さな宮殿を指差す。

元太：何か、人が集まってるなあ

光彦：行ってみましょう！

光彦の合図で、探偵団が一斉に走り出す。

彼らが走りだした為、残りのメンバーも、彼らを追うように、そちらの方向に歩いていった。

その宮殿のような場所には、アーチ状の造木に、ベルが7つぶら下がっている。背景には、「KOBELMINARIE 継続開催のための募金にご協力下さい。」と書かれていた。

コナン：継続開催？そういえば、ここにくるまでに、白いジャンパ

ーを着た人たちが募金の呼びかけしてたな

哀：ええ、募金したら、こんなもの貰ったわ

そう言つて、哀が取り出したのは、名刺サイズくらいのカードだった。

そのカードの下には、「ご協力ありがとうございました。」というメッセージが書き込まれている。

そこには、フロンターネの写真と共に、「『神戸ルミナリエ』は、震災の記憶を後世に語り継ぎ、神戸の夢と希望を象徴する行事として、毎年開催されています。」と書かれていた。

それは、このルミナリエが、単なるイルミネーションイベントではなく、震災で亡くなった方の鎮魂、そして、そのご遺族が力を取り戻すための「希望の光」であることの象徴である。

歩美：いいなあ。哀ちゃん

哀：あら？あなたたちも、あそこで募金すればもらえるわ

そう言つて、拡声器を持って募金を行っている人がいる場所を指差す。

よく見ると、カードのようなものを持っており、募金をした人に配っていた。

平次：ほな、自由行動としよか♪7時にここに集合やで♪

元太・光彦・歩美：はい♪

ずっと屋台の方が気になっていたのか、「自由行動」というセリフを聞いたとたん、元氣よく返事をする子どもたち。

コナン：分かつてると思うけど、無駄遣いすんじゃないぞ？

哀：それと、このベルを鳴らそうとして、無駄にお金投げたりしないようにね？

3人の兄・姉役として、あらかじめ釘を刺しておく。

光彦：大丈夫ですよっ！

元太：そんなこと全然考えてねえから

歩美：心配しないで、哀ちゃん、コナンくん

努めて冷静に答えようとする3人だが、多少の焦りが見える。

この様子を見た大人たちは「凶星か」と思ったという（笑）

11・東遊園地（後書き）

お久しぶりです、あこです。

1月17日までには終わらせるとか言っておきながら、出来ませんでした。

ホントにごめんなさい!!!

今回の、東北地方太平洋沖地震で被災された方に対して、心よりお見舞い申し上げますと共に、亡くなられた方のご冥福をお祈りします。

阪神淡路大震災の語り部をテーマとしたこの作品、こんな時だからこそ、書ききらなければいけないと思い、少しずつではありますが、執筆を再開しました。

この話が、被災地の方の「希望の光」となることを願って　。

2011.3.29　あこ

12・自由行動

自由行動を言い渡され、探偵団は早速屋台の方へ走り出す。

阿笠：これ、待たんか！子どもたちだけでは危ないぞ

そう言つて、阿笠も子どもたちを追いかける。

そんな声に気づいたのか、子どもたちは立ち止まり、「博士、早く！」と呼びかける。

元太：おーい！コナン、灰原！！

光彦：早く来て下さい！！

歩美：早く来ないと追いつちゃうよ？

元太たちは、同じ探偵団のメンバーである、コナンと哀を誘つ。

コナン：わりい！オレ、他にも見て回りたいからパスするわ！

というのは口実で、「工藤新一」として平次と話がしたいのである。幸い和葉も、久しぶりに再会した、蘭や園子と一緒にいたいようなので、平次と一緒にいることに支障はない。

歩美：哀ちゃんは？

未だ、コナンの隣に立っている哀に話を振る。

哀：わたしも、周りのモニュメントを見て回りたいから遠慮するわ

余談ではあるが、こちらは本心である。

無論、コナンの「他にも見て回りたい」というセリフの真意は見抜いての発言であるが（笑）

コナンに想いを寄せる歩美は、哀の返答を聞いて表情が少し曇る。しかし、次の瞬間には「分かった」と笑顔を見せる。

光彦：それじゃ、僕たちは屋台のあたりにいますから、何か用があれば来てくださいね！

コナン：おう♪

そして、探偵団と阿笠は、屋台の方へ向かっていった。

園子：それじゃ、私たちも自由行動と行こうか♪

園子は、目を輝かせ、まるでバーゲンにでも行くときのような表情（かお）をしていた。

蘭：「行く」ってどこに行くのよ？

園子：決まってるじゃない♪お土産よ、お・み・や・げ♪

もし、自由行動ともなれば、すぐにでも向うつもりだったらしい。完全なる戦闘体制である。

和葉：せやったら、あっちのテントの方見に行く？ルミナリエのグッズとか、神戸のお土産とか色々売ってるし

園子：いいわね♪行きましょ♪

蘭：うん　、でもコナンくんは？

和葉と話をするつもりではあるが、行動が決まっていないコナンを心配する。

平次：大丈夫やて♪ボウズやったらオレが見とくさかい♪

コナン：ぼくも平次兄ちゃんとお話したいから蘭姉ちゃんたちは、和葉姉ちゃんと一緒に行ってきなよ！

2人は、同時に5ヶ月前の飛行船ハイジャック事件の翌日を思い出していた。

蘭：そう？それじゃ、コナンくんのことお願いね、服部くん

平次：おう♪任せとき！

女子高生3人組も、テントの方へ向っていった。

蘭：あ、お父さん？お酒、飲み過ぎないようにね

思い出したように父に忠告をする蘭。

小五郎：わかってらあ！！！！

口ではそう答えるも、内心あせっている小五郎。

娘の雷は、妻の次に怖い。最近、英理に似てきた娘を考え、酒は控えようと思った小五郎であった。

そんな小五郎も、屋台の方へ向い、コナン、平次、哀の3人が取り残された。

平次：ほな、オレらは行くけど、姉ちゃんはどうするんや？

唯一行動が決まっていない、哀に待ち合わせまでの時間つぶしをたずねる。

哀：この辺りのモニUMENT、見て回ろうと思ってるから、これで失礼しようかしら？あなたたち2人の邪魔するのも悪いし

哀は、そう言つて、立ち去ろうとする。

平次：せやつたら、一緒に行かへんか？

哀：え？！

平次の思いもよらぬ申し出に、驚く。

哀：でも

平次：ええやん。どうせ、こいつのこと、姉ちゃんの前で「工藤」
つて呼んでも問題あらへんねやし♪

コナン：おい！！人前で、そう呼ぶなつて何回言ったら分かるんだ？！お前には「自覚」つてもものがないのか？それがバレたら、お前だつて殺られちまうんだぞ？お前だけじゃない、和葉ちゃんや大阪府警本部長の親父さんにだつて影響が及ぶんだ！

一応、人に聞かれたらヤバい内容なので、平次の耳元で話す。
彼が人前で「工藤」と呼ぶのはいつものことである。

平次：大丈夫やて。オレはそんな変な薬飲まされるようなヘマだけはせえへんから！

コナン：オマエなあ。

いつの間にか、くだらないけんかを始めてしまう2人。

ハタから見れば、平次がコナンをいじめているように見えかねない。

哀：くすっ
♪

2人の子ども染みたケンカが面白かったのか、思わず笑う。

しかし、次の瞬間には、その笑顔を消し、真剣な顔を平次に向けた。

哀：あなたは分かっているわね、彼らの恐ろしさを。いい？わたしと彼の秘密を知ってるってことは、あなたも彼らの標的になってるっていうことよ？その時が来たなら、あなたも、彼女も、あなたに関わった人、全員消されるわ。あなたにその自覚と覚悟はあるのかしら？

そう語る哀の瞳の裏に、警察署の霊安室で対面した姉・宮野明美の姿が写る。

そして、自らを血眼になって探している、長身で銀髪の男の姿が脳裏に浮かんだ。

平次：大丈夫やて♪心配せんでも、オレと工藤でその何とかっちゅう組織をやっつけたるさかい♪

コナンと哀の忠告が耳に入っていなかったような笑顔で答える。しかし、その瞳の奥には、探偵としての覚悟が見て取れた。

平次：どうせ、乗りかかった船や。そんなん気にせんと、笑や♪女の子は笑顔が1番なんやで？ほな行こか♪

そこまで、言われてしまったのは、さすがの哀も、言葉につまる。

哀：余計なお世話よ

珍しく、うつたえる哀に、「こんな顔もするんだな」と思うコナンであった。

哀：何よ？

コナン：いいや、何でも

そう言つて、平次を追いかける。

哀：（工藤くん、服部くん。彼らはそんなに甘くわないわ。けど、この一か八かの大勝負、あなたたちに賭けてみようかしら。たまには、こんなバクチも悪くないわ）

2人の高校生名探偵に、自らの運命という、大きなものを託してみようと思ひながら、先を歩いている彼らを追いかけていった。

12・自由行動（後書き）

久しぶりの更新です。

なかなか更新する機会がなく、遅れてしまいました。

組織のこととか、勝手に筆が動いて、入れてしまいました。

あと、哀は、平次のことを名前で呼んだことがないので、どうしようかと思いましたが、心の中のセリフとして「服部くん」と呼ぶことにしました。

多分、蘭が「蘭さん」だから、園子や和葉は「園子さん」と「和葉さん」だろうな。

で、コナン（新一）を「工藤くん」と呼んでることから、そのまま苗字で「服部くん」と落ち着きました。

で、「2人に運命を託す」なんて、原作でも出てきてないようなことを入れましたが、この話はフィクションですので、深く考えてはいけません。

次話は、予定していた本編にはなかった話です。

タイトルは、「希望の灯り」となります。

まだまだ、メインイベント（語り部）にはほど遠いですが、お付き合いください。

13・希望の灯り

コナン：おい、服部。どこまで行くんだよ？！

東遊園地を南下していく（神戸は東西に電車が走っており、山側が北、海側が南と、方角は非常に分かりやすい）平次に、たずねる。

平次：ちよつと、二度手間になるんやけどな、どうしても連れってつたりたいところがあるんや

そう言つて、平次が案内したのは、噴水広場付近にある、「1・17 希望の灯り」であつた。

この「1・17 希望の灯り」は、阪神淡路大震災の復興モニュメントの1つである。

被災地、10市10町を巡って運ばれた種火、そして、文字通り全国から集められた種火をひとつにしたものである。

コナン：ん？この石碑、何か書いてあるぞ

灯りの台座には、次のような文章が書かれている。

1・17 希望の灯り

1995年1月17日 午前5時46分 阪神淡路大震災

震災が奪つたもの

命 仕事 団欒^{だんらん} 街並み 思い出

… たった1秒先が予知できない人間の限界…

震災が残してくれたもの

やさしさ 思いやり 絆 仲間

この灯りは

奪われた

すべてのいのちと

生き残った

わたしたちの思いを

むすびつなく

その小さくも、確かな炎の揺らめきに、3人は見入る。

この灯は消してはならない。

人々が、前を見て歩いていく為に。そして、生きている全ての人の希望の灯りとして。

平次：ほな、もう1箇所行くで♪

そういつて、平次が案内したのは、慰霊と復興のモニュメント。

ここには、阪神淡路大震災で亡くなった方の名前が刻まれている。柔らかな光と、天井で揺らめく水面が、自然と心を落ち着かせる。

哀：こんなにたくさん

平次：ああ、6434人の人以外にも、この震災が原因で亡くなってもた人も入ってるからな。どうしても、多なってしまううんや

普段は、午後5時で閉場となるのだが、このルミナリエの開催期間

中のみ、消灯まで開場されている。

それはまた、この神戸ルミナリエが、「阪神淡路大震災の犠牲者の鎮魂、そして復興」をテーマとしている証であった。

コナン：なあ、服部。そろそろ時間だぜ？

思いにふけっていた静寂を打ち破るようにコナンが発言する。

コナンの声で、時計を見ると、すでに6時50分を過ぎている。

3人は、慰霊と復興のモニュメントを出ると、待ち合わせ場所である、スッパリエーラへと向かう。

哀：そういえばさっき、「二度手間になるんやけど」とか何とか言ってたけど、どういう意味？

哀は、思い出したように平次に尋ねた。

平次：あー、そんなこと言うつつたなあ（笑）ま、「とんぼ返り」っていうこっちゃ♪

コナン：はあ？！まさか、近くにあったテントって

平次：そういうこっちゃ♪

思わず呆れ顔になるコナン。

彼らが立ち寄ったモニュメントの近くに、運動会などでよく見かけるテントが組みたてられ、約20脚ほどのパイプ椅子が並べられていた。

今更ながら、平次の言った「二度手間」の意味を理解し、「こいつは」となるコナンと哀であった（笑）

13・希望の灯り（後書き）

コナンたちがあまり会話してなくてすいません。

ただ、余計なセリフでこの碑文を邪魔したくなかったので、会話を省いて、文章だけにしてしまいました。

一応、「1・17」阪神淡路大震災」までを平次、「震災が」仲間」までをコナン、残りの文章を哀が読んだという設定を作っております。

東北の地にもこの希望の灯りが届くことを願って　。

14・合流

コナンたちが待ち合わせ場所である、カッサ・アルモニアに着いたとき、すでに探偵団と阿笠、そして小五郎が待っていた。

小五郎：こらっ！遅せーぞ、探偵ボウズ！オマエが言いだしっぺなんだから、待つくらいのことしろっての！！

平次：すまんなあ、おっちゃん（笑）

とりあえず、口では謝っておく。

光彦：ところで、3人はどこに行って来たんですか？

コナン：ああ、希望の灯りと慰霊と復興のモニュメントってヤツを見てきたんだ

哀：ルミナリエに来たんだし、見る価値はあったわね

そう言つて、コナンと哀は、温かな炎の揺らめきを思い出す。

コナン：で、そういうオメーらは何やってたんだ？

屋台めぐりをしていたということは想像がつくが、一応たずねてみる（笑）

歩美：歩美たちは、屋台で色々食べてきたよ♪

光彦：ええ、明石焼き、おいしかったですね♪

元太：おっ♪神戸牛のステーキ串もうまかったな♪

どうやら、この神戸（ないし、兵庫県？）のグルメを堪能したようである（笑）

光彦：そういえば、壊れた時計を持った女神像がありましたよ
元太：え？！そんなのあったか？

歩美：うん、あったあった！あれ、何ていったっけ？

ふと背後から、和葉の声が響く。

和葉：それやったら、「マリーナ像」やろ？歩美ちゃん

みんなが振り向くと、いつの間にか蘭たちも合流していた。

歩美：そう！マリーナって書いてあったよ！

和葉：あの、マリーナ像はな、震災で根元が折れてもうたんやけど、
震災の記憶を伝えるために、修復されたんや。ちなみに、マリーナ
が持つてる時計が指してる時刻は「5時46分」でな、ちょうど震
災が発生した時刻やねん

阿笠：なるほど。地震の影響で時計が壊れてしまい、発生した時刻
を指したままということじゃな

しんみりした空気が彼らの周りを支配する。

そんな空気の中、コナンがふと思いついたようにたずねた。

コナン：ところで、蘭姉ちゃんたちは何買ったの？お土産とか言っ
てたみたいだけど

蘭：これよ♪

蘭が取り出したのは、1枚のCDだった。
それは、この神戸ルミナリエで使用されている音楽が収録されたも
の。

平次：ああ、このCDに入っとる音楽、毎年神戸の女子大で録音されとるらしいな

和葉：うん、何か知らんけど、毎年その女子大で録音されてんねん

平次や和葉がいう神戸にある女子大とは、「神戸松蔭女子学院大学」のことである。

この大学のチャペルにて、1999年以降、毎年ルミナリエ会場で流す音楽の録音が行われているのだ。

小五郎：ったく、こんなもんに無駄な金使いやがって

蘭：お父さんの酒代とタバコ代に比べればたいしたことはないわよ！

コナン・園子：ははは

日常茶飯事なのか、コナンや園子は笑って聞き流す。

光彦：あの、そろそろ移動しなくて大丈夫ですか？

7時半からの語り部とは聞いているが、すでに7時10分を回っている。

光彦の指摘で、自分たちが何のためにこのルミナリエに来たか（誘ったか）を思い出した一行は、噴水広場付近の語り部が行われる会場に向かっていった。

14・合流（後書き）

はい！あこです。

「神戸松蔭女子学院大学」の名前を出したくて、蘭たちにルミナリエのCDを買ってもらいました（笑）

実はこの大学、コナンにも関係があります！！

第12作目の映画、『戦慄の楽譜』において、取材協力してるんです！！

もう、初めてエンドロール見たときはびっくりしましたよ。

なんせ、自らが在学している学校が取材協力ですからね（笑）

次回は、語り部！ の直前です。

再び、「しあわせはこべるように」の歌詞を出します。

まだまだ時間はかかりますが、引き続きお付き合いよろしくお願いします。

15・しあわせはこべるように。そして語り部

午後7時30分を少し過ぎたころ、年配の男性・佐川浩輔さがわこうすけがマイクを手に持ち、集まった観客にアナウンスを行う。

佐川：それでは、語り部の会を始めたいと思います。ですが、その前によろしければ皆様、前にあるキャンドルを取りに来てください。

長机とパイプイスの前に、綺麗な青いガラスに入れられたキャンドルが並べられている。

佐川の説明によると、この灯りは、「希望の灯り」から分灯されたということである。

佐川：希望の灯りを持つ機会ほとんどありませんし、是非どうぞそこのお子さん方どうですか？

そう言つて、コナンたちにも希望の灯りのキャンドルを勧める。

佐川の勧めにより、高校生以下のメンバーが希望の灯りのキャンドルを持つこととなった。

そして、会場に集まったメンバーに1枚の歌詞カードが配られる。

その歌詞カードには、『しあわせはこべるように』というタイトルと、その歌詞が書かれている。

光彦：『しあわせはこべるように』？どこかで聞いたことのあるタイトルですね

歩美：歩美もそう思う！

元太：確かに。どこで聞いたかな？

つい数時間前に聞いたタイトルである。

どんな曲かは分からなくとも、うつすらと記憶には残っている。

蘭：確か、点灯のときに流れてた曲だよな？

園子：そういえば、そんな曲だったわ！

小学生より記憶力は確かな、東京の女子高生2人。

和葉：せやで、点灯のときに曲や

平次：そっぴや、ニュースで流れとったな。語り部の前にこの曲歌うって

佐川：では、この『しあわせはこべるように』をみんなで歌って、語り部に入りたいと思います。伴奏は彼らが行いますので、よろしくお願いします。

佐川の紹介で登場したのは、サククスやトロンボーンを持った大学生くらいの男女4人。

彼らは、互いに確認を取り合つと、演奏を開始した。曲を知らない者のために、地元のボランティアがリードを行ってくれる。

♪地震にも負けない 強い心を持って

亡くなった方々のぶんも 毎日をたいせつに生きてゆこう

♪傷ついた神戸を 元の姿に戻そう

支えあう心と明日への 希望を胸に♪

♪響き渡れ僕たちの歌 生まれ変わる神戸のまちに

届けたい私たちの歌 しあわせ運べるように♪

みんな数時間前に聞いた為、記憶を頼りに、小さい声ではあるが歌っている。

もちろん、コナンでもある（笑）

が、その声量はというと、隣に座っている蘭と哀がかるうじて聞き取れる程度。

皮肉にも、周りの人間に影響を与えることはなかった。

哀：（相変わらずの音痴ね、工藤くん　　）

と哀が思ったのは、内緒である。

♪地震にも負けない　強い絆をつくり

亡くなった方々のぶんも　毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を　元の姿にもどそう

やさしい春の光のような　未来を夢み

響き渡れ僕たちの歌　生まれ変わる神戸のまちに
届けたい私たちの歌　しあわせ運べるように

ここまでくると、小学生3人組の声が大きくなる。

響き渡れ僕たちの歌　生まれ変わる神戸のまちに
届けたい私たちの歌　しあわせ運べるように

届けたい私たちの歌　しあわせ運べるように♪

佐川：ありがとうございます。みなさんの元気な声が聞けて、私たちもうれしいです。それでは、語り部を始めたいと思います。井崎^{さき}さん、よろしく願いします。

佐川が紹介したのは、20代前半くらいの女性・井崎妙美である。いさきたえみ
妙美がマイクの前に立つと、拍手が起こる。

妙美：こんばんは、井崎妙美です。今日は、皆さんの前でお話する
ということ、とても緊張していますが、よろしく願います。

そう挨拶し、妙美が頭を下げると、再び拍手が起こる。

その拍手が鳴り止み、一瞬の静寂が訪れる。

その静寂を合図に、妙美はあの時のことを語りだした。

15・しあわせはこへるように。そして語り部（後書き）

こんばんは、あこです。

ついに、次回から語り部です。

実は、この先は下書きがありません。

その理由^{わけ}は、この語り部、あたし自身の話を書く^わこうと思っているからです。

本来なら文章の推敲を行いつつ書きたいところですが、どうにも下書きをして書くには勇気が出ませんでした。

さて、この「あこ」こと、「井崎妙美」ですが、あたしのもうひとつのハンネです。

ちなみに、佐川浩輔は適当に考えました（笑）

では、しばらくですが、この語り部にお付き合いよろしく願います。

16・記憶（前書き）

語り部です。

しばらく、コナンたちのセリフはありません。

16・記憶

「わたしは、兵庫県淡路島の出身です。と言っても、実際に生まれた場所は、大阪なんです。」

妙美の語り部は自己紹介から始まった。

生まれは大阪だが、物心つく前に父親の実家がある淡路島に来た為、大阪に住んでいた記憶がないことや、当時の家族構成など、まずは、「自分という人間がどういう者なのかを知ってもらおう」という、彼女なりの姿勢であった。

そして、妙美の話は、「あの時」のことに差し掛かる。

「あの日、1995年1月17日のことは、記憶がはっきりしている部分と、16年経とうとしている今でも思い出せない部分があります。どれだけ頑張っても、抜けたパズルのピースみたいにとこかで忘れ去られたみたいに、わたしの記憶にありません」

そう語る妙美は、思い出せる限りの記憶を語りだす。

「あの地震の直前。ほんの数秒前だったと思うけど、小さな「パチッ」という音で目が覚めました。あの時のわたしは、真っ暗な中では眠れなかったけど、何でか、「停電か、寝よ」って思いました。あの大きな揺れがあったのは、わたしが目をつぶった直後でした」

そう語った後、妙美は目をつぶる。
そして、一呼吸おき、続きを話す。

「実は、揺れている間の記憶がはっきりしないんです。今、わたし

に思い出せることは、天井から砂埃が落ちてきたから布団をかぶったこと、「ゴー」という様な音がした。って言っても、今となつては思い出せませんが、そんな音がして家が揺れたので、「大きな風でも吹いたのかな？」ということだけです。」

そう言つて、周りを見回す。

「みなさんからしたら「バカだろ」と思われるかもしれませんが、あの時、小1だったわたしには、『地震』というものすら何かも知らなかったし、言葉も、あの時初めて知りました。だから、今思うと、怖いです。わたしが寝ていた布団の枕元には、大きなタンスがありました。あの震災でタンスが倒れることはなかったけど、もしあの地震でタンスが倒れてたら、「わたしは今、ここにいるかもしれない」そう思うと、本当に、怖いです。」

そう語る、妙美の声は、若干震えていた。

自分があの6434人もの犠牲者の1人になっていたかと思うと、大人になったからこそ分かる、死の恐怖を16年が経とうとしている今になって思い知った。

「あの揺れの後、隣の部屋で寝ていた父親が、飛び出していくのが音で分かりました。記憶にない、あの大きな揺れと、飛び出していく音が「ただ事じゃない」と告げていたのか、わたしもその後を追いました。幸いにも、家族に怪我はなく、これといった被害もなかったです。だからこそ、淡路島が震源地だと言われてもピンとこなかったし、どれほど大きな地震だったのかは分からなかったです。」

「あの地震の大きさを初めて目の当たりにしたのは、あれから1年経った時でした。2年の冬休みに、大阪の親戚の家に遊びに行った時、阪神高速が倒れて通れなかったから、一般道で大阪まで行っただけですが、建物が崩れて、その瓦礫がまだ残っている状態でした。」

だからこそ、今の神戸を見て、「街がきれいだな」って思うんです。前からあったような建物も見られるけど、やっぱり、道路やビルを見てると、「16年前の地震が原因なんだな」って思われます」

この東遊園地周辺にも、震災の面影が感じられるものが残っている。東遊園地から南に行った波止場にも、震災の被害の面影が残されている。

HAT神戸にある、「人と防災未来館」では、当時の映像や街並みが再現されているジオラマがあったり、淡路市（旧北淡町）には、この阪神淡路大震災にて現れた「野島断層」という断層の一部がそのまま展示されていたりと、その記憶を後世に伝えていこうという試みが見られる。

そして、この「神戸ルミナリエ」もそんな試みのひとつともいえる。

そして、妙美の話は、震災から自らのある経験へと変わるのであった。

16・記憶（後書き）

震災語り部の『震災編』です。

これから、主に大学時代のあるお話となります。

この話、ほとんど嘘偽り無い、あたしの経験話です。
もうしばらくお付き合いお願いします。

17・想い出（前書き）

かなり久しぶりの投稿です
。

17・想い出

妙美は辺りを見回し、ひとつ息を吐くと、自らの話を続けた。

「わたしは去年まで、あるボランティア活動に参加していました。最初は、何でもこんなことをしているのだろう　って思うこともありました。でも、そこで出会った仲間が、今のわたしにとって、かけがえのない友人です」

そう語る妙美の視線が、奥に定まる。

彼女の目線の先には、彼女と同年代の女性がいた。

妙美は女性に向かって笑みを浮かべながら頷く。女性もまた、妙美に向かってかすかな頷きを見せる。

「わたしたちは、ボランティア活動の一貫で、HAT神戸にある、“人と防災未来館”という施設を見学させて頂きました。震災発生時の映像を見たあと、“震災発生時の神戸の街”を歩きました。この時、初めて“震災”の大きさを目の当たりにしたんです」

妙美のいう“街”とは、勿論ジオラマのことである。

いくらか見慣れた映像であっても、状況であっても、“百聞は一見にしかず”という諺の通り、己の目で見ることで、初めて気付くことが多い。

「今回の話とは少し離れてしまいましたが、去年の夏、わたしは就職活動で広島に行きました。その際、どうしても行きたい場所があったので、足を運んでみたんです。それは、第二次世界大戦の生き証人、原爆ドームです。何でそんなところについて思うでしょうね（笑）」

妙美は自嘲気味に笑う。

「でも、わたしはこの目で見てみたかったです。あの日、何が起こったかを。自分の目で見るからこそ感じる何かがありますよね。初めて生で見た原爆ドームに、背筋が寒くなりました。その時、思っただんです。 “ 知ること ” って本当に大切なことなんだなって」

そう語ると、妙美は自らの名前が書かれたホワイトボードを裏返し、『しあわせ運べるように』の歌詞をみんなに見せる。

「皆さん、このルミナリエをどんな風に見てこられましたか？」突然の妙美の質問に、今まで彼女の語り部を聞いていた人たちは顔を見合わせる。

ただひとり、平次だけが真剣な目で妙美を見据えていた。

17・想い出（後書き）

すいません、完結させられないまま1年が経ってしまいました。
去年の1月17日を最終閉め切りと勝手に決めていた話ですので、
時間的におかしな表現があるかと思えます。
が、ご了承いただけたら幸いです。

18・真意（前書き）

語り部、最終章です。

18・真意

「皆さん、ルミナリエをどんな風に見てこられましたか？」

妙美の突然の質問に、平次は真っ直ぐ彼女の目を見つめる。

彼がコナン達をルミナリエに誘った訳、その本当の意味に差し掛かろうとしていた。

「さつき、皆さんに歌っていただいた、この『しあわせ運べるように』の歌詞、それが答えです。シンプルですが、それ以上も、以下もありません」

この神戸ルミナリエを、理解して来場してる人は一体いくらいるのだろうか。

震災発生年より毎年開催され、16回目を迎える今回、初めてこのような企画が開催された。

これは、単なるイルミネーションのイベントではない。

語源的に言えば、ルミナリエを英語にすると、イルミネーションの意味になるのだが（笑）

「この中には、地元の方、観光客の方もいらっしゃると思います。特に、お子さん方にとっては、生まれる前の出来事ですから、地元の子でも震災を知らないことが多いと思います。だから、知っておいて欲しいんです。この灯りの本当の意味を。1ヶ月後の1月17日、あたしが井崎がこんなことを言ってたなって思い出していたければ幸いです。最後になりましたが、皆さんご清聴いただき、ありがとうございます」

そう言つて妙美が頭を下げると、彼女の語り部を聞いていた客達から拍手が起きる。

勿論、コナン達も例に漏れず拍手だ。

「ありがとうございます。皆さん、井崎さんにもう一度大きな拍手をお願いします」

進行係の佐川がアナウンスすると、一際大きな拍手が発生した。

妙美はマイクを通し、「ありがとうございます」ともう一度頭を下げた。

「では、これで本日の語り部を終了したいと思います」

佐川の進行挨拶と共に、コナン達も席を立つ。

そして、再び東遊園地の広場へと歩き出した。

18・真意（後書き）

どうも、あこです！

漸く、ネツクとなつてた語り部を書ききりました♪

パチパチ♪

もう当初考えてた語り部はボツだし、自分のことを語っておきながら、かなり薄い内容だし、もう滅茶苦茶です。

あたし、あこの語り部としてはノンフィクションですが、完全なフィクションですから、悪しからず（笑）

さて、次どうしましょ。

正直、書き始めから1年以上経過してるので、内容を忘れてるんですよね（笑）

ま、今年の1月17日までには絶対に完結させますよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3094p/>

luminarie～光の記憶

2012年1月9日20時45分発行